

「全鍍連」 2019年 11月号 巻頭言

全鍍連 専務理事 清水 篤人（全国鍍金工業組合連合会）

「土壌汚染対策のGR・SRという考え方」

突然ですが、GR・SR という土壌汚染対策関係の略語を御存知でしょうか。全鍍連の石崎常任理事（東京都鍍金工業組合副理事長）から氏が委員に就任している東京都の土壌汚染対策検討委員会の審議内容について伺った際、GR、SR という考え方を教えていただきました。

欧米を中心に、土壌汚染対策における環境負荷低減の動き（GR）や環境面だけでなく社会面・経済面も考慮した土壌汚染対策の意思決定の動き（SR）への取組が進められており、このような GR・SR の考え方を国内にも取り入れるべく、東京都が率先して検討会を設置しました。経済産業省所管の「産業技術総合研究所」の技術協力を得た上で、土壌汚染対策の環境負荷について検討し、土壌汚染対策における環境負荷定量評価手法ガイドライン及び複数の環境負荷を容易に定量評価できるツールを作成しホームページで公開しているとのこと。GR・SR の考え方を規制当局でも積極的に取り入れようとしていることが分かり、めっき業界の大きな課題である、水質規制の分野にも広がっていくことに大きな期待を持ちました。

現在の水質規制の体系は、公害が大きな社会問題となり、全国一律で膨大な数の事業者にも網羅的な規制を行わなければならない時代から変わっていません。

人への健康被害や環境への被害を未然に防止することが大前提ですが、GR・SR の考えを水質規制分野でも取り入れ、容易ではないかもしれませんが、社会的・経済的な面も考慮したより科学的・合理的で地域の実態に沿った規制体系に大転換が図られることを強く期待しています。

—以下東京都環境局ホームページより—

【GR・SRとは】

GR（Green Remediation：グリーン・レメディエーション）土壌汚染に伴う人の健康リスクや生態リスクだけではなく、土壌汚染対策自体に伴い発生する外部環境影響負荷を考え、さらにそれを低減するための取組みのこと。外部環境負荷の指標としては、CO₂等の排出、ガソリン等のエネルギー消費などが用いられる。

SR（Sustainable Remediation：サステイナブル・レメディエーション）環境面だけでなく、社会及び経済的側面も統合的に考慮し、最適で合理的な土壌汚染対策を選定する土壌・地下水汚染対策の新しい取組。社会的な要素

(地域住民や労働者の人の健康影響、事故等の安全性、地域コミュニティへの影響)、経済的な要素(直接コスト、間接コスト、残存する経済的なリスク)等を含めて評価対象としている。



<GR・SR イメージ>

(東京都環境基本計画 2016 より)